

一般質問発言通告書

発言順位 2 番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和元年 11月 26日

三島市議会議員 大房 正治 様

三島市議会議員 20 番

宮下 知朗



質問事項 1	自然災害に対する対応能力強化に向けて
具体的内容	
<p>10月12日大型で強い勢力を保ち伊豆半島に上陸、関東甲信・東北地方を通過した台風19号は、記録的な大雨などにより各地に甚大な被害をもたらし、本市においても人的・住家の浸水被害やがけ崩れなどが発生した。</p> <p>例年のように各地で想定を上回る自然災害が発生し被災している現状から、各施設について最悪の事態を想定し、より強固なものへと改善していく必要があるが、財政や社会・自然環境の面から考えると早期の対応は現実的ではない現状を踏まえると、これまで自然災害で得た様々な教訓を活かし、命を守るため被害極小化を図る取り組み、起こり得る困難な状況を想定した対応をより強化していくことが重要であると考え。そこで以下について伺う。</p>	
1. 防災情報提供方法の多様化・機能強化に向けた現状と課題について伺う。	
2. 水害時における避難所・避難経路の見直しの必要性有無および校舎解放や民間企業の協力を得ることができないか可能性について伺う。	
3. 避難所運営に対する理解および「共助」の精神を醸成することを目的に、避難所運営ゲーム(HUG)による防災教育の実施を提案するがいかにか。	
4. 停電に対する備えとして、避難所となり得る公共施設の発電設備・蓄電池の整備状況および以降の整備の必要性について伺う。	
5. 内水氾濫防止および被害極小化のため、排水ポンプ車を整備してはどうか。	
質問事項 2	子どもを産み育てやすいまちを目指して
具体的内容	
<p>働き方の多様化や女性の社会進出に伴い保育需要が高まる中、受け皿となる施設整備に注力いただいているものの、待機児童・隠れ待機児童の解消には至っていない現状は、子どもを産み育てるにあたり大きな不安要素の1つとなっている。</p> <p>2019年10月よりスタートした幼児教育・保育の無償化に伴い、今後潜在的な需要が顕在化し待機児童問題がより悪化する可能性がある中、保育需要に応えることができれば、子育ての不安を解消することはもちろんのこと、「子どもを産み育てやすいまち」として移住・定住を検討する際、大きなメリットの1つとなるものと考え。</p> <p>受け皿を充実させることで、より「子どもを産み育てやすいまち」としていくために以下について伺う。</p>	
1. 令和2年度の保育所等定員と入所申込児童数の状況について伺う。	
2. 保育所等の新規参入、既存設備拡大等による受け皿拡大の可能性について伺う。	
3. 入園率が低調に推移している市立幼稚園のこども園化や一時預かり事業の充実について、市の考えを伺う。	